学校番号	3005

令和２年度　工業科（工学系）

教科	工業	科目	建築・ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ系 製図	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	製図　（実教出版）						
副教材等	建築設計製図　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

木構造は、基本的な構造形式であり、設計の仕方や考え方、構造の特性について十分に理解しておきましょう。各図面の種類とその縮尺との関係、部材の組立・接合の方法と表現、仕上材の取り付け方などの知識と技術をしっかり学びましょう。

また、デザインのプロセスに従った考え方、作業の進め方、一貫した表示技法に重点を置いて作図技法を学習します。グラフィック製品の三面図のトレース演習課題を通じて、寸法の正確さと線の丁寧さ、スケッチの表現方法や着彩方法を身につけていきましょう。

2　学習の到達目標

・単元毎の演習課題によってどの程度理解しているかを否か測る。

・単元毎の実技演習課題によって技術がどの程度習得できたかを測る。

・授業態度・課題提出状況などを評価の対象とする

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	製図に関する事象について関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	製図に関する事象について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	製図に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、製図に関する技術を適切に活用している。	製図に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における製図の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価・相互評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期・後期	建築・グラフィックデザイン製図	線の練習 木構造(木造平屋建住宅) 1)配置図、平面図、断面図、立面図 木構造の設計	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	a:製図に関する事象につて関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。 b:図面の種類とその縮尺、部材の組立・接合の方法と表現、仕上材の取り付け方について常に思考・判断し、適切な図面表現に意欲的に取り組むとともに、実践的な行動力を身につけている。 c:木構造の設計の基礎知識と、基本的な各種図面の描き方と手法を体得し、木構造の製図法の理解に意欲的に取り組むとともに、実践的な技能を身につけている。 d:木構造の設計の基礎知識と、木構造の図面の種類とその縮尺、部材の組立・接合の方法と表現、仕上材の取付方について理解し、適切な図面表現に意欲的に取組むとともに、実践的な知識を身に着けている。	学習状況の観察 提出物 自己評価・相互評価 等
		透視図法 1)一点透視図法 2)二点透視図法・ 3)透視図を用いた工業製品の制作	 ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○	a:製図に関する事象につて関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。 b:製図の基本ルールを理解し、表現できている。 c:透視図の基礎知識と、基本的な各種図面の描き方と手法を体得し、意欲的に取り組むとともに、実践的な技能を身につけている。 d:製図や透視図の基礎的・基本的な知識を身に付け、簡単な工業製品の完成図を制作するとともに、製図の意義や役割を理解している。	学習状況の観察 提出物 自己評価・相互評価 等

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。